



令和元年度 第3回まなびあいサロン

10月9日（水）の、第3回まなびあいサロンには、みみちゃん教室や幼稚部の保護者の皆さんなど、13名が参加してくださいました。

テーマ：『ことばの発達や支援について』 講師：幼小学部主事 齋藤 隆康

「ことばを育てる」とは？学校では

「ことば」⇒日本語 「育てる」⇒「子どもがことばを使う」

◎育てたい能力

- 1 話す能力（発音・発語指導）
- 2 聞く能力（聴覚活用に関する指導）
- 3 読む能力
- 4 書く能力
- 5 コミュニケーションする能力
- 6 音声言語で思考する能力
- 7 記憶する能力

生活のリズムと日常会話

- 1 基本的な生活習慣の徹底
（早寝・早起き、朝ご飯、歯みがき）

2 あいさつ

「あかるく、いつでも、さきに、
続けて、伝わるように・つながるように」

- 3 学習習慣の獲得（本人、保護者、教師）

※ タイムコントロール

- 4 宿題は、付き添って・寄り添って
- 5 家族での会話時間の確保
- 6 メディアの制限



2 より良い言語指導をするために

- 1 子どものかかわりや指導に打ち込む決心をする
- 2 子どもとの対話名人になる
- 3 子どもの生活全体を通して指導する
- 4 「教えれば必ず伸びる！」という希望をもつ
- 5 一人でなんでも解決しようとする
- 6 保護者と指導者は協力をする
- 7 聴力を十分に生かす
- 8 子どもをほめながらかかわる・指導する
- 9 子どもが伸びない原因を子どものせいとしない
- 10 他人と比較しない
- 11 コツコツと積み上げていく
- 12 目標をもち、細かな計画を立てる
- 13 気づいたことをメモに書き留める



出典「わかりやすい言語指導」著者：柳生浩 出版：湘南出版社

教科の学習をするために大切なこと

- 1 日本語の生活言語を正確かつ豊かに獲得させること
- 2 日頃あまり使わない学習言語を見聞きする回数を増やすこと
- 3 「因果関係や共通点、背景などを考える習慣」をつけること

『9歳の壁』を超えるために 著者：脇中起余子



☆まとめ☆

普段の生活の中であえて言葉にして丁寧に声をかけていくことで、子どもの聴く力が育ち、内言語として積み重なり、言語力につながります。口形をはっきり、日本語のリズムを意識しながら音声や手話で表現することが大切です。

～参加者の感想～

☆国語の教科指導についての工夫、興味深く勉強になりました。オノマトペについての動作活動についても参考にしてみたいと思いました。小学部からどうなっていくのか大まかに知ることができてよかったです。

☆育てるではなく、育つという考えでいいんだと思いました。コミュニケーションを大事にし、子供の目線にたち、かかわっていきたくと思いました。

☆質問した内容と違う答えが返ってきたとき、つい「違うよ」と言ってしまうので子供に寄り添っていきたく。

